

学童保育の運営・環境の改善を

江南市の学童保育がピンチです。待機解消の目途が立たず保護者の不満が噴出。施設の拡充も進まず、支援員の退職まで相次いでいます。掛布議員は、夏休み中の学童保育所の実態調査と支援員の声をもとに、危機的状況打開のための運営と環境の改善、支援員の処遇改善を強く求め、様々な提案を行いました。

夏休みの学童保育は「かごの鳥」状態 冷風機の使用を認め、体育館の解放を

異常な猛暑の夏休み。学童保育の子ども達は運動場やプールでも、また体育館もエアコンがなく遊べず、終日狭い室内ですし詰め状態でした。せめて学校体育館にある避難所用の気化式冷風機の使用を学童保育に認め、体育館を学童保育に解放するよう求めました。

「冷風機を学童保育で使うことは可能だが、使用前後の準備や手入れのために支援員の増員が必須なため慎重に検討する」と答弁がありました。



日本共産党市議
かけの
掛布まち子
電話 53-7727

1年間に支援員が2割も退職

95人の学童保育の支援員・補助員のうち1年間に18人も退職しました。支援員が定着しないのは学童保育の環境と処遇が劣悪なことが原因ではないかと、要求を把握し改善を図るよう求めました。

市は「月に一度、支援員会議を行って課題や問題点を検討し随時改善している」と答弁しましたが、環境や運営、処遇に問題があることは認めませんでした。

来夏こそ待機の解消を

今夏も5、6年生30人の待機が出てしまいました。希望の所に空きがなく、支援員確保も進まなかったのが原因でした。そこで放課後子ども教室（フジッ子）の保護者アンケートの結果を、来夏の待機解消のためにどう生かすのか質しました。

市は「例えば、フジッ子の部屋を学童保育で使用し、安全管理員を学童保育支援員に雇用変更するなど考えられるが、一朝一夕には進まず、慎重に検討中」との答弁でした。

1歳児5対1
江南も早く

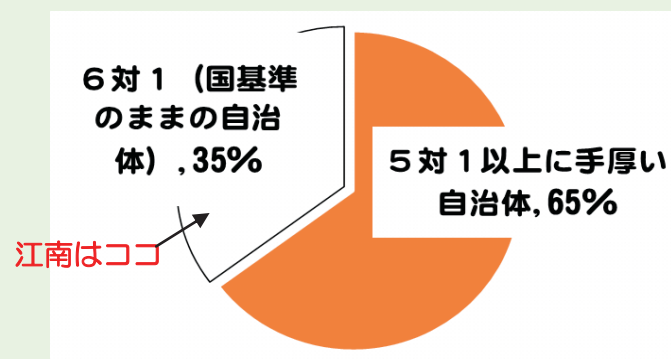
保育士配置基準の改善を

保育士1人がみる園児数を定めた国の配置基準は50年以上も見直しがありません。保育士の過密労働が放置され、園児の安全や豊かな育ちが守られない状況です。

1歳児の基準を国の6対1より充実させる県の補助制度を活用し、県内自治体の65%が5対1以上に手厚くしています（右グラフ）。江南市の近隣では全ての自治体が既に改善済みです。

江南市では急激な少子化と、認定こども園で来年度から1歳児枠が大幅に増えるため待機児発生への心配はありません。一刻も早く他自治体のよ

うに5対1にするべきと質しました。市は「保育士不足が深刻で、5対1に見直すと待機が出るおそれがある」と相変わらずの答弁でした。



浸水被害をなくす対策を

今年度の豪雨による被害は床下浸水5件と車の水没が6件でした。

特に夜間の急な豪雨では冠水していることがわからず水没しやすいので、何か対策はできないかと質しました。

「豪雨時冠水注意の看板を立てているが、それ以外は難しいので、防災ハンドブックで冠水しやすい場所を確認してもらうよう呼びかける」とのことでした。

第3次総合治水計画に基づいて、古知野高校は今年度から、古知野南小学校と古知野西小学校は2025年度にグラウンド下に雨水貯留施設の整備を始め、それらが2025年度末までに完成予定。付近の道路冠水などの被害が軽減することを確認しました。



日本共産党市議
みわ 陽子
電話 54-6712

市独自の給食費無償化を

全国で給食の無償化がすすんでいます。

江南市で一部無償化するには財源がどれだけ必要かを聞きました。

小・中学校の第3子以降無償化で約1,740万円、4月1か月間の無償化で約2,900万円、犬山市のように小6と中3だけを対象とすると約1億円、保育園給食では第3子以降無償化で約1,172万円、第2子以降で約4,915万円という答弁でした。

施政方針で給食費の一部無償化を検討すると表明していた市長に、どこを無償にするのか、来年度予算に計上するべきと質しました。

「無償化には一部であっても多額の財源が必要であり、目的によってどこを無償化するのかが変わってくる。そこをしっかりと検討していく」との答弁がありました。



学童保育に昼食提供を

夏休みは給食がなく、お弁当を毎日つくらなくてはならないのが負担との声が保護者から出ています。昼食提供には、給食や子ども向け弁当の配達などいろいろな方法があるので検討できないかと質しました。

「現在支援員・補助員の確保が大きな課題であり、支援員・補助員の新たな負担増につながることは慎重にしたい」との答弁でした。

あすの江南

発行：日本共産党江南市委員会
2023年10、11月 市議団HP⇒
No.537

